



筑後川遺産

城島酒蔵

ものがたり

〈メインストーリー〉

良質な米と豊かな水に恵まれた城島では、「東の灘、西の城島」と称されるほど酒造りが盛んです。

江戸時代に始まった酒造りは、明治になると販路拡大のため、地元杜氏の養成や三瀧酒造研究所を開設するなど品種改良に取り組みました。そして、試行錯誤の末「暖地軟水仕込み」を確立し、城島独自の酒造技術の普及に成功しています。蔵元の多くは、そこで生み出した財を地域のインフラ整備や人材育成に使いました。

酒造りの発展が、城島の地域産業（農業、瓦造、木工業）や文化芸術を育て、酒造りがまちづくりにつながり、今でも見事な葦の酒蔵や酒造り関係の産業遺産が多く残されています。

団体：久留米市西部ツーリズム協議会

企画展 「筑後川遺産・城島の酒蔵・田主丸の祭り」

筑後川遺産

城島の酒蔵・田主丸の祭り

令和5年(2023) 9月23日(土) ~ 12月10日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

●筑後川遺産とは
久留米市内には、悠久なる大河筑後川の恩恵に育まれた歴史遺産（文化財）が数多く広がっており、それぞれの遺産に歴史や文化を背景とする物語があります。その様々な物語

令和5年3月31日に初めて「筑後川遺産」登録を行った「城島酒蔵ものがたり」と「田主丸・祭りの賑わう里」地域をつなぐ「SDGs」を、実物資料や関連パネルにより紹介。

会期 令和5年9月23日(土・祝) ~ 12月10日(日) 10時~17時
会場 六ツ門図書館展示コーナー



筑後川遺産

田主丸

祭

りの賑わう里

地域をつなぐSDGs

〈メインストーリー〉

田主丸は7km四方の狭い範囲に、耳納連山の山辺から筑後川の水辺まで変化に富んだ自然と豊かな田畑が広がります。そのような環境のもと、年間200を超える祭り（神事や伝統行事）が、自然・産業・地域社会に支えられ受け継がれています。日本が育ててきた伝統的なSDGsと言える祭りが田主丸には集中して引き継がれており、ほかには代えられない価値を有しています。

〈サブストーリー〉

- ・夜渡よど ・厄除け風止めやくよめ ・町祝い（糸びす様） ・神迎えの堂籠りどうごもり
- ・獅子舞と獅子打ち ・虫追い祭

団体：田主丸・未来創造会議

でつながれた歴史遺産の関連が「筑後川遺産」です。

●筑後川遺産登録制度とは

市内に所在する固有の歴史的背景（ストーリー）で関連付けられた歴史遺産のまとまりを「筑後川遺産」として登録するものです。地域や行政など、多様な人たちが参加して、歴史遺産の保存・活用に取り組むために創設しました。この制度は令和3年度にスタートしました。

●初登録！2件の筑後川遺産

令和4年度に、久留米市西部ツーリズム協議会および田主丸・未来創造会議から、それぞれ「筑後川遺産」の登録申請が提出されました。これは、有識者からなる久留米市文化財保存活用地域計画協議会により審査され、久留米市の歴史文化の特徴を表し、その価値が市民に共有できるものであると認められました。そして、令和5年3月31日に「城島酒蔵ものがたり」と「田主丸・祭りの賑わう里」地域をつなぐSDGs」の2件が、筑後川遺産に初登録されました。